

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 14 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K02186

研究課題名(和文) 多文化共生時代の家庭科教員育成拠点の創成と授業支援ネットワークの構築

研究課題名(英文) Development of a network to support classes and creation of a center for the training of home economics teachers in the era of multicultural society

研究代表者

堀内 かおる (Horiuchi, Kaoru)

横浜国立大学・教育学部・教授

研究者番号：00252841

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：家庭科教員の力量形成のための研修のあり方を検討する目的で、家庭科教員コミュニティ「HELICY」(Home Economics Lesson/learning Community in Yokohama)を組織・ウェブサイトを開示し定例の家庭科研修会を実施し成果を検証した。2018年度は先行事例としてカナダのマニトバ州における関連団体へのヒアリング調査を実施し、効果的な組織の在り方について示唆を得た。2019年度から2021年度は、ICTを媒体とするネットワーキングと研修の恒常化という成果を上げた。オンラインだからこそ、全国から参加者を得て、各教員の経験が共有され、新たな<知>が創生された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

家庭科教員の力量形成のためのコミュニティをオンラインを媒介としてつなぐという方法で、恒常的な定例研修会を運営したことにより、研修会に全国から集うメンバーにとっての学びの場が保証された。専門家による講義や実践交流の中で各教員が自らの実践を省察し、新たなヒントを得て、視野が広がり授業への意欲の向上につながった。学び続ける教員であるために有意義な学びの場として、オンラインによる研修の有効性が確認された。

研究成果の概要(英文)：A home economics teacher community "HELICY" (Home Economics Lesson/learning Community in Yokohama) was organized and its website opened to the public for the purpose of studying training methods to build the competencies of home economics teachers, who are assigned to one teacher at each school and lack opportunities to exchange information. Regular home economics training sessions were held and the results were verified. In FY2018, we conducted interviews with related organizations in Manitoba, Canada, as a leading example, and obtained suggestions on how effective organizations should be. Because it is online, we were able to obtain about 20 participants each time from all over the country, generating a place where knowledge based on each teacher's experience is shared and new knowledge is created.

研究分野：家庭科教育学、教師教育

キーワード：家庭科教員 オンライン研修 教員の力量形成

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

平成 28 年 12 月に公示された中央教育審議会答申において、「社会に開かれた教育課程」という理念が提起された。これは、それぞれの学校が、子供達に身につけさせるべき資質・能力を明確にし、社会との連携・協働によりその実現を図るという考え方である。子供達が様々な情報の溢れる知識基盤社会の担い手として成長するためには、学校の中に閉ざされた学びではなく、広く社会と繋がり世界を展望し、自らの足元を見つめ直す機会を設ける必要がある。多様な文化的背景を持つ人々が共に生きる社会のあり方が問われ、異文化が融合し合う生活文化の中で「日本らしさ」が見直されようとしている今日、子供達の視野を広げ、現代社会の仕組みや生活の営みについて考える教育の契機をもたらすことが重要であろう。

変化の激しい多文化共生時代を子供達が力強く生き抜くためのすべとなる知識や技術そして人間関係を醸成する力を育む教育の可能性が、家庭科教育には見出される。なぜなら、誰もが営んでいる「生活」の中にこそ、社会の多様性は散見されるからである。本研究は、以上の家庭科教育の直面する課題を背景として構想された。

2. 研究の目的

本研究では、グローバル化の進展する多文化共生時代の家庭科教育を推進しうる家庭科教員の力量形成に資する教員支援と研修のあり方とはどのように立案され、実践されるべきなのかを追究することを目的とした。具体的には、各学校に一人配置で教員同士の交流が少ない家庭科教員の状況を補うために、新しい社会的要請を視野に入れた研修コミュニティを創成し、学びの場を保障する方策を検討し、成果を検証することとした。

3. 研究の方法

(1) 海外の先行事例の調査

カナダ: マニトバ州に拠点を置く Manitoba Association of Home Economics (MAHE) を訪問し、家庭科教員ネットワークの組織運営について調査する。

(2) 横浜市に拠点を置く家庭科教員ネットワーク: HELCY (Home Economics Lesson/Learning Community in Yokohama) を組織・定期的な研修会を開催し、参加者からのフィードバックをもとに成果を検証する。

4. 研究成果

(1) 海外調査からの示唆

Manitoba Association of Home Economics (MAHE) を訪問し、会長らに対するヒアリングを行った結果、MAHE のネットワークの特長として、会長は現職の中学校家庭科教師であり、家政学部出身で現地の生活関連企業勤務のメンバー、教育委員会所属の家庭科カリキュラム専門家がチームとなって家庭科教員を対象とするセミナーを開催し、新しい教育課程における家庭科教育の在り方を発信していたことが明らかになった(堀内 2020)。

また、マニトバ州の公立学校教員全員が加入している教職員組合の傘下にある Manitoba Home Economics Teachers Association (MHETA)



図1 マニトバ州における MAHE の位置づけ

についても調査した結果、MAHE と MHETA は中核となっているメンバーが重なり、連携をもって家庭科教員支援を行っていることがわかった。

(2)家庭科教員コミュニティの創成と研修の実施と成果の検証

2018 年度に家庭科教員のバーチャルな情報交流空間をウェブ上に構築するために、これまで本研究代表者が運営してきた家庭科授業研究会を再組織し、その名称を「HELICY」(Home Economics Lesson/Learning Community in Yokohama)と改め、ウェブサイトを開設し、オンラインで授業検討を行う可能性について試行した。

2019 年度から、HELICY の運営は毎月 1 回の定例会を対面で実施し、20 代の非常勤講師から 50 代の教育委員会指導主事まで幅広いキャリアと専門性を持つ小・中・高校の家庭科教員が参加した。学校段階の系統性を視野に入れ、生活を多面的にとらえる家庭科授業について、検討し合うことができた。研修会は年度内で 8~12 回開催され、2018 年度に開設したウェブサイトに掲載する教材案の検討や、タブレット端末を用いた教材の提示・発表を行い、情報を交換し合った。

研修会のディスカッションで得られた談話データからは、それぞれの教員の経験に基づく<知>が提示され、そこから始まる話し合いによって新たな<知>が創生される様子を見て取ることができた(中西・堀内 2021)。

家庭科教員の学びを支援するコミュニティは、研修講師から教員への一方通行の知識・経験の伝達ではなく、同僚性の中で教員同士が相互の知見を踏まえ、語りあう中で、より良い授業のあり方を練り直し、共同の財産としての<知>を創り出していく組織である。こうしたコミュニティが活性化するために、大学教員がどのように関与すべきなのか、ナレッジ・マネジメントの理論に依拠することによって、今後の家庭科教員研修と学びのコミュニティ形成への示唆を得ることができた(中西・堀内 2020)。

2020~2021 年度は、コロナ禍の収束の見通しが立たない中で、当初計画されていた対面・集合による研修会という形式を一新し、オンライン・ビデオ会議システムによる遠隔開催の研修会を毎月 1 回、定例会として継続開催した。各回の参加者は平均 18 名であった。これは対面で開催していた時と比較して大幅な増加であり、かつ継続して毎回参加する教員集団を得ることができた。学び続ける家庭科教員のコア層ともいえるこれらの教員たちは、意欲的に研修会に参加し、研修会での他の教員の発言や講師の話から示唆を得て、自らの授業の糧にしていた様子が見られた。

HELICY研修会は、家庭科教員のナレッジ・マネジメントの場として機能し、集った家庭科教員たちにとって、自分自身の実践を省察し、新たな授業アイデアの視点を獲得する機会をもたらしていたことが、参加者の事後アンケートから明らかになった。

引用文献

- 堀内かおる(2020)「カナダ・マニトバ州における家庭科教員支援体制の現状と課題」『横浜国立大学教育学部紀要 教育科学』4 巻 209-218
- 中西佐知子・堀内かおる(2020)「ナレッジ・マネジメントの視座から見た家庭科教員コミュニティの可能性」『教育デザイン研究』11 巻、97 - 105
- 中西佐知子・堀内かおる(2021)「学び続ける家庭科教員のためのコミュニティの可能性 自主的な研修会における談話分析とインタビュー調査から」『日本家庭科教育学会誌』64 巻 2 号、113 - 124

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 中西佐知子・堀内かおる | 4. 巻 64(2) |
| 2. 論文標題 学び続ける家庭科教員のためのコミュニティの可能性 自主的な研修会における談話分析とインタビュー調査から | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 日本家庭科教育学会誌 | 6. 最初と最後の頁 113-124 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 堀内かおる | 4. 巻 669・70 |
| 2. 論文標題 オンラインでつながる家庭科教師のLearning Community | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 家庭科 | 6. 最初と最後の頁 7-12 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 堀内かおる | 4. 巻 4 |
| 2. 論文標題 カナダ・マニトバ州における家庭科教員支援体制の現状と課題 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 横浜国立大学教育学部紀要 教育科学 | 6. 最初と最後の頁 209-218 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18880/00013717 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 中西佐知子・堀内かおる | 4. 巻 11 |
| 2. 論文標題 ナレッジ・マネジメントの視座から見た家庭科教員コミュニティの可能性 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 教育デザイン研究 | 6. 最初と最後の頁 97-105 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18880/00012934 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 中西佐知子・堀内かおる | 4. 巻 62(1) |
| 2. 論文標題 中学校家庭科教員のICTリテラシーの実態と課題 神奈川県、佐賀県の調査から | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 日本家庭科教育学会誌 | 6. 最初と最後の頁 27-37 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11549/jjahee.62.1_27 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 堀内かおる | 4. 巻 61 |
| 2. 論文標題 学び続ける家庭科教員のための育成指標 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 日本家庭科教育学会誌 | 6. 最初と最後の頁 46-49 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

[学会発表] 計6件(うち招待講演 0件/うち国際学会 2件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 中西佐知子・堀内かおる |
| 2. 発表標題 オンラインでつなぐ家庭科教員の Learning Community |
| 3. 学会等名 日本家庭科教育学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 小笠原由紀・堀内かおる |
| 2. 発表標題 生活文化への気づきから始まる家庭科準備教育 |
| 3. 学会等名 日本家庭科教育学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 池岡有紀・竹山昭子・堀内かおる |
| 2. 発表標題 「学習プラン」の共有による生徒の学びと授業のあり方 - 家庭分野におけるICT活用を通して - |
| 3. 学会等名 日本家庭科教育学会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Kaoru HORIUCHI |
| 2. 発表標題 A learning community of home economics teachers operated spontaneously through online meeting system: An analysis from the perspective of knowledge management |
| 3. 学会等名 World Association of Lesson Studies (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 堀内かおる・中西佐知子 |
| 2. 発表標題 学び続ける家庭科教員のためのオンライン・ナレッジ・マネジメント 遠隔開催研修会における談話分析からの考察 |
| 3. 学会等名 日本家庭科教育学会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Kaoru Horiuchi, Yuki Ikeoka |
| 2. 発表標題 Developing an Audiovisual Teaching Material as a Role Model for Positive Aging |
| 3. 学会等名 The 20th Asian Regional Association for Home Economics (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 堀内 かおる 編著 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 世界思想社 | 5. 総ページ数 224 |
| 3. 書名 生活をデザインする家庭科教育 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|--|
| HELICY-家庭科教員のためのコミュニティサイト http://www.helcy.ynu.ac.jp/ |
|--|

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|-----------------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | 中西 佐知子 (Nakanishi Sachiko) | | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|